

個人質問



ポイント還元事業第二弾は
財源やデータを踏まえて調整

Q 厳しい地域経済の現状に鑑み、
第二弾のポイント還元キャンペーン
を期待する声があるが、実施の意向
はあるか。

A 決済金額は約35億円で、ポイント
還元額は約4億6千万円と、大きな効
果を得たと思う。平成27年に実施した
プレミアム付商品券事業と比較した場
合では、飲食店の利用割合は利用総額
の約2%だったが、今回は約14%とな
り非常に増えた。

第二弾の実施は、財源の問題を整理
し、経済界の意見や本市のデータを踏
まえながら調整したい。

早急な消費喚起を狙い
スマートフォン決済を決定

Q 新型コロナウイルス対策のポイント還元
キャンペーンの連携先をPayPay
に決めた経緯は。

A 消費喚起を早急に行わなければな

25人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

らなかったため、事業の周知期間を含
めて1カ月程度で開始できるスマート
フォン決済に決定した。また、システ
ム上、複数社で管理できないため、1
社を選ぶこととし、上位5社で比較考
量した。

選定基準として、JR岡山駅周辺で
利用可能な店舗数ではPayPayが
468、2番目が96で、新規登録に係
る日数でもPayPayは最短1日、
その他は約2週間から1・5カ月であ
ったことからPayPayに決定した。



Web会議と組み合わせた
コンベンションの取り組み

新しいノウハウで
コンベンションを誘致

Q コンベンション開催件数の昨年
同時期との比較は。また、Web会
議を促進していく中、今後、誘致を
どのように進めるか。

A 開催件数は、令和元年度の4月か

ら8月まで145件、2年度は3件と
なっている。

新型コロナウイルスの拡大やWeb会議の導
入で、今後のコンベンションのあり方
は不透明な部分もあるが、本市ではW
eb会議と現地での会議を組み合わせ
た新しい形の見本市や会議が開催され
今後はそこで得た新しいノウハウを強
みとして、誘致活動を進めたい。

第三者への事業承継を支援し
事業者の後継者問題に対応

Q 令和2年9月に創設した「岡山
市事業承継支援補助金」は、親族、
社内の後継者向けのように見えるが、
第三者への事業承継の考えは。

A この補助金は、親族、社内の承継
への支援だけでなく、M&Aを見据え
た経営状況の把握や経営改善について
支援することとした。

第三者による事業承継は重要と考え
ており、大きな課題の一つとして指定
都市市長会の会議で議論し、例えば税
制面で地方での事業承継に優遇措置を
設けることなどを提起した。どうすれ
ば地方で事業承継しやすくなるか、全
国的な議論が必要と考える。

個人質問は市議会ホームページのイン
ターネット議会議中継で配信しています。



造山古墳の葺石（古墳の表面を覆う石）

古代吉備の歴史研究
大学等と連携

Q 造山古墳をはじめとする吉備の
遺産群は貴重な文化遺産である。古
代吉備国の歴史や文化を調査・研究
するため、産学官民連携による研究
所を立ち上げてはどうか。

A 造山古墳は全国で4番目に大きな
古墳で、大きな勢力が吉備にあったこ
とは間違いない。古墳ができた時代に
岡山、吉備でどんな勢力により何が行
われたのかを学ぶことは必要である。

これから岡山大学が中心となった学
術調査を行う予定で、今までは「学」
との連携が不十分だったため、今後は
大学等と連携して情報発信を行い、歴
史研究の機運を高めたい。

※8【M&A【Mergers（合併）and Acquisitions（買収）】】
わが国では、広く、会社法の定める組織再編（合併や会社分割）に加
え、株式譲渡や事業譲渡を含む、各種手法による事業の引継ぎ（譲り
渡し・譲り受け）をいう

都市機能誘導区域の中心を瀬戸支所にすることを検討

Q 現在の立地適正化計画では、瀬戸地区の誘導区域は瀬戸駅が拠点の中心だが、駅の裏側に鉄砲山がある。また、瀬戸駅が土砂災害警戒区域にあるため、瀬戸支所を拠点の中心にしては。

A 誘導区域は、拠点に鉄道駅がある場合、そこを中心とした徒歩圏域を踏まえて設定する方針としている。しかし、瀬戸地区は区域中心部の瀬戸駅を含むエリアが、土砂災害警戒区域により都市機能誘導区域から外れている。一方、瀬戸支所は瀬戸駅に近く、重要な場所でも多くの市民が利用している。また、徒歩圏域の考え方を変えずに、都市機能誘導区域を少し広く取ることができないのではないかと考えられる。こうしたことから、瀬戸支所を都市機能誘導区域の中心に変更することを検討したい。

河川や街中のごみ対策として啓発や清掃用具の提供

Q ポイ捨てされないよう、ごみの

うな取り組みがあるか。また、河川敷のごみ拾いをしている住民団体等にどのような支援をしているか。

A ポイ捨て禁止の看板やのぼり旗の設置、ポケットティッシュなど啓発グッズの配布、ラジオでの呼びかけ等を行っている。市内中心部の美化推進重点区域では巡回指導員による指導啓発を行っている。

また、住民団体等が河川敷や道路等の公共用地を清掃する場合、管理主体が国や県であっても清掃用具の提供を行っているっており、回収されたごみも、処理施設に無料で受け入れている。

「自らの地域は自らで守る」消防団員の確保

Q 消防団は郷土愛護の精神に基づく住民有志の消防機関であるが、現在、団員の確保に苦慮する消防団も多い。女性や学生の入団促進などを含め、本市の現状と対策は。

訓練に励む若手消防団員



A 火災予防や応急手当の普及啓発活動において、特に活躍が期待される女性団員は126人で、学生団員は24人である。また、学生については団員であることが就職活動で評価される「学生消防団活動認証制度」で入団を促している。新たな対策では独自の消防団PR動画を制作しSNS等で配信する。

また、「消防団協力事業所を増やし、団員確保対策を強化したい。」

多胎児の育児支援

Q 多胎児を育てる両親は疲労困ぱいしており、経済的、精神的な負担が大きく支援の充実が喫緊の課題である。支援の対象者は非常に限られており、令和2年度の途中でも実現できることから進めてもらいたい。また、「こそだてぽけっと」の多胎児育児や支援の情報が分かりにくいので、改善してほしい。

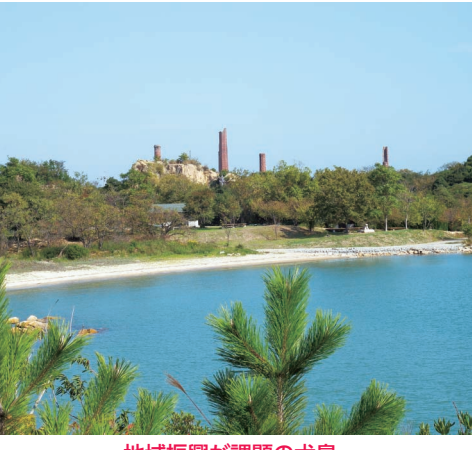
A 本市として課題を整理し、できることはやっていきたい。子育て応援サイト「こそだてぽけっと」は、多胎児の子育てサポートについての情報を入手しやすいよう、表示や検索の仕方等を工夫する。また、内容も早急に関係部署と協議し分かりやすいものに改善したい。

観光客の増加や島民の安心・安全で大島振興

Q 大島地域振興計画は、平成25年度からの10力年計画となっており、最終局面に入るが、今後の取り組みは。

A 観光客等の面では、令和元年度瀬戸内国際芸術祭が開催され、ホッピーバーの開店や京橋からのクルーズ船就航などの新たな動きで、来島者が2万7千人、前年度比で3割増加した。報道では、次回の開催は、ICTを活用した展示方法も検討しているとのことと、岡山芸術交流も同年開催したいと相談しており、どういう動きをするか議論したい。

一方で、島民の方の思いに寄り添うとともに、安心・安全な生活を支える医療、福祉、交通などを引き続き確保したい。



地域振興が課題の犬島

新たな日常に向けた改革を推進
Q 行政分野で改革を推進するためには、ICTの活用が必要不可欠だが、本市の対応は。

A コロナ禍でデジタル化の必要性が再認識された。例えば、紙で提出された書類をシステムに入力する単純作業が大きな事務負担となっているが、行政手続のオンライン化やAI（人工知能）・RPAの活用をさらに広げること、職員は人間でなければできない業務などに注力できる。

本市の「行財政改革プラン」や次期「情報化指針」に、デジタル化に関する具体的な施策の方向性を示したい。

※10 **ナッジで分かりやすく伝える**

Q 行動経済学「ナッジ」の活用で、新しい生活様式を実践しやすくする工夫について、どのように考えているか。

A 「ナッジ」の考え方は、本市の各部署が持っていると思う。例えば、特別定額給付金の申請では、混乱を防ぐため給付を希望しない場合だけ申請書にその旨を記載し、希望の有無を書くチェック欄をなくした。また、「スイッチ！おかやま」でも、「ピクトグラム」を多く使い、分かりやすくするなどの工夫を行っている。



非常に重要な考え方であり、当面は新型コロナウイルスに関係する局が必要になると思うが、全庁的に取り組みたい。

**書類への押印の見直しで
利便性向上と行政の効率化**

Q 押印の見直しは、感染症の拡大時には感染リスクを減らし、柔軟な働き方の後押しに不可欠な取り組みだ。また、手続きのデジタル化促進の入り口だが、実施状況は。

A 行政手続きのデジタル化の推進は必要であり、押印の見直しは必須と考える。①法令等の根拠がないものは、令和2年中に廃止する。②法令などで様式に押印が求められるものは、2年度中に調整し3年度からの廃止に向けて調整する。③他の機関や組織へ提出する書類で提出先から押印を求められるものは、他の機関と調整し、了解を得て廃止する。④法令に押印の記述があるものは、廃止できない。以上四つの分類に合わせ至急動きたい。

**3年度から各区役所
おくやみ窓口の試行を検討**

Q 死亡に伴う手続きをワンストップで担う「おくやみ窓口」の設置が自治体で広がっており、国もそれを後押ししている。本市でも各区役所に設置しないか。

A これまでも議会で議論となってきた件であり、令和3年度から各区役所で試行できるよう検討したい。

今後の高齢者人口の増加などを考えると、より分かりやすく負担感の少ない手続きにすべきと考えており、これから半年間きちんと詰めながら、できる範囲でまずはスタートさせたい。



**音楽を安心して楽しむ環境へ
感染リスクの評価を実施**

Q ライブハウスで新型コロナウイルスを防ぐ取り組みについて、これまでの経過と今後のスケジュールは。

A 岡山ライブハウス連絡会からの要望を受け、本市と連絡会で協力して、新型コロナウイルスへの感染リスク評価の17項目を設定した。各店舗で自己点検、自己評価を行い、本市が改善点等をアド



バイスしている。また、市保健所による現地講習会を行い、意見交換等も行った。

各店舗で感染症対策の見直しを行い、リスク評価項目をすべてクリアした店舗には、専用ポスターを掲示する。

**必要なデータを整理し
新型コロナウイルスを正しく恐れる**

Q ホームページで重症患者数、PCR検査の実施数、医療体制の整備状況等、市内の現状についての情報も分かりやすく発信すべきでは。

A 令和2年3月のページ開設から、現在まで5度改正している。2年9月時点で、感染者数と入院等の状況、年代別感染者数、発症日別の感染者の推移、推定感染経路、年代別症状をまとめている。その他「スイッチ！おかやま」、事業者向け支援一覧を追加した。

また、検査の状況に陽性率などの追加の意見があり、PCR検査の数がりアルタイムで分からないことから、整理して改正することを考えている。

※11 【ピクトグラム】

絵文字や絵単語などと呼ばれ、何らかの情報や注意を促すために表示される視覚記号

※10 【ナッジ】

行動科学の知見の活用により、人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取るように手助けする政策手法

※9 【RPA (Robotic Process Automation)】

これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化すること